



函館市議会議員 無所属

荒木あけみ

函館市議会議員 荒木あけみニュースレター 第 17-18 合併号 / 2019 年 9 月 / 発行責任者 荒木明美

「函館」が生き残る街に。新たな気持ちで 2 期目始動！

4 月 21 日(投開票)の函館市議会議員選挙において、**荒木あけみは 3,865 票** (27 名中 10 位) を得て、二期目の当選をすることができました。前回の 3,538 票(30 名中 17 位)を上回る結果となり、多くの皆様からのご支援を頂戴いたしました。2 期目も、無所属市民派として一人でスタートです。函館の先々を考えた政策と皆様の声を市政に届けて参ります。新たなこの 4 年間も、皆様のお役に立ち、信頼される議員を目指して努力してまいります。ご指導ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

お礼をお伝えできませんこと、ご了承ください。

公職選挙法ではあいさつ行為に制限があるため、選挙後、皆様へお礼を述べることはできませんでした。この場でご説明すると共に、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



ご参考までに

公職選挙法 第 178 条「選挙期後のあいさつ行為の制限」

何人も、選挙の期日後において、当選又は落選に関し選挙人にあいさつする目的をもって次に掲げる行為をすることができない。

①選挙人に対して戸別訪問をすること。②自筆の信書及び当選又は落選に関する祝辞、見舞等の答礼のためにする信書を除くほか文書図画を頒布し又は掲示すること。(以下略)

走って、踊って、視察して。今夏もめいっぱい動きました！

7 月 7 日の函館マラソン。9 時スタートの号砲と共にハーフ招待選手の素晴らしい走りを横目にして荒木も走り出しました。昨年はハーフで完走できたのですが、その時の古傷と練習不足があり、今年は残念ながら早々にリタイアしました。待ち時間には外国語が飛び交い、昨年に比べて海外ランナーも増えたようです。天候にも恵まれ、活気に満ちた大会。ランナー 1 万人超えもまもなく達成できるように感じました。

8 月 2～3 日は、毎年恒例のはこだて港まつり。港まつり実行委員会のメンバーとして(市議は市役所管理職の方々と共にここに入ります)十字街・松風コース、千代台・五稜郭コースをそれぞれ踊りました。

8 月 12～14 日は、はこだて夜祭り in グリーンプラザ。昨年市の経済部企画によってインバウンド(外国人旅行者)向けに夜に楽しめるイベントとして実験的に始まり、今年は内容もさらに充実し多くの方がいらっしやいました。荒木は、友人達(初日は観光部長にもお声がけて)と函館港おどり、いいんでないかい、函館音頭、大門音頭の四曲をやぐらの上で踊りました。昨年は 1 時間ぶっ続けでも踊りましたが今年は休憩も挟み楽しく踊れました。西部地区第三方面各町会(荒木もここに所属)の皆さんにも宣伝等でご協力いただき地域の方も楽しめるお祭りでした。

そんな踊り続きの合間に、沼津市、亀岡市へ行政視察。沼津市では 9 月議会で取り上げるアニメツーリズムについて「ラブライブ! サンシャイン!!」というアニメ作品を通じたまちづくりとその成功事例を。亀岡市では、以前議会で取り上げた国際認証「セーフコミュニティ」、日本で最初に取り入れた亀岡市の取り組み状況や成果等について。それぞれ生の話を伺うべく、各市役所を訪問しました。“百聞は一見に如かず”、を体験してきました。

[お祭りや視察の様子は裏面にも載せています]



4～9 月 主なあしあと

- 4/22 函館市議会議員当選証書付与式
 - 5/18 学校備品譲渡会見学(高盛小)
 - 5/21-22 市議会/臨時会
 - 5/29-6/1 PPP/PFI 大学校受講
 - 6/7 補正予算説明会
 - 6/20 市議会/本会議、開会
 - 6/25-26 市議会/代表質問
 - 7/1-3 予算特別委員会分科会
 - 7/11 市議会/個人質問、閉会
 - 7/26 荒木明美と語る会(弁天町会館)
 - 7/27 学校備品譲渡会見学(亀尾小中)
 - 〃 荒木明美と語る会(宝来町会館)
 - 8/6 沼津市視察(ポップカルチャー)
 - 8/7 亀岡市視察(セーフコミュニティ)
 - 〃 PPP/PFI 大学校受講
 - 8/19-21 全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津)で地方財政の研修
 - 9/2 市議会/本会議、開会
 - 9/3-9 予算決算特別委員会
 - 9/18 市議会/一般質問、閉会
 - 9/28 荒木明美と語る会(住吉町会館、第二船見町会館)
- ※その他、調査、市政相談等を日常的に行っております。

一般質問 (2019年3月、15回目の質問)

2019年3月11日に60分一般質問をしました。以下は質問の一部ですので、全体をお知りになりたい方はインターネットで！函館市議会の様子が動画サイトのYouTubeで見られます。「荒木明美 函館市議会 一般質問」と入力・検索し、動画を選択すると出てきます。



財政の将来見通し

荒木：地方交付税は、各地方自治体が一定水準を維持すべく、国が徴収した税金を合理的基準で再配分される。人口減少に伴い、国からの交付税額が減るが、人口減少が地方交付税へ与える影響はどのくらいか。

荒木の視点⇒人口が減ると交付税が減る、一方で人口が減っても市の面積は変わらない。行政サービスの多様化が求められる中、依存財源の多い函館市の交付税が今後減少していくことを受け止め、事業の取捨選択、長期的財政計画が必要。

財務部：普通交付税の基準財政需要額では5割以上の経費が国勢調査の人口をベースとしている。前回2015年の国勢調査で人口約1万3千人の減に対し、翌年度の普通交付税影響額は約13億8千万円。これは5年間で段階的に減額となる。次回2020年の国勢調査人口は、普通交付税の算定に同様の影響があるものと想定。

金銭管理・消費者教育

荒木：成人年齢引き下げにより、多重債務だけでなく、金銭管理や契約・取引などお金にまつわる消費者教育が18歳以前の若者に必要と感じる。どのように考えているか、現在どんな取組みを行なっているか。

荒木の視点⇒消費者教育、特に正しい金銭感覚・消費行動を若いうちに身につけてほしい。そのためには基本的な知識を学生のうちに学ぶ仕組みが必要ではないか。

市民部：成人年齢の引き下げを念頭に、若年層の消費者教育として、契約に関する基本的な考え方、プリペイドカードやビットコイン(取引ツール)の危険性、消費者問題の現状と知識、対処方法等、最低限の実践対応ができる消費者教育が必要と考える。中学・高校等へ提供している金融出前講座の内容を適宜見直しながら啓発活動を実施し、さらに函館消費生活センターでも市内高校の卒業生を対象に消費者トラブルを防ぐための消費者教育リーフレットを配布している。

虐待・暴力のないまちづくり

荒木：虐待を受けた児童の個人情報や、虐待を行った親が情報の開示を求めてきた場合、函館市ではどのような対応となるか。

荒木：市が行っている「子どもなんでも相談110番」のこども向けチラシでは、「秘密を守ります」ということが書いていない。大人向けチラシには書いており、チャイルドラインや24時間子どもSOSダイヤルでも秘密を守ることを明記している。函館の子ども向けチラシ他、子ども達が目にするものには書くべきと感じるがいかがか。

荒木の視点⇒この他に、議会質問では、高齢者虐待、障がい者虐待、DVの現状についても触れた。事故、怪我だけでなく、災害や自殺、虐待・暴力も含む国際認証のセーフコミュニティ[※]の導入を提案した。

※セーフコミュニティ：けがや事故は、偶然に起こるのではなく、原因を究明することで予防できるという理念のもと、地域の誰もがいつまでも健康で幸せに暮らせるまちづくりを進める制度。

教育委員会：保護者が学校に対して情報等の開示を求めた場合は、基本的に情報を開示しなければならないが、保護者による子どもへの虐待を把握、又は虐待が疑われる場合は、情報等を開示することで子どもの生命・身体に危険が生ずるおそれがあることから開示できないものとする。学校、市教委、関係機関の連携を密に図りながら慎重に対応する。

子ども未来部：平成29年度の子ども専用フリーダイヤル・子ども専用ページ開設の際に子どもを含む市民への周知を目的に作成したものであり、関係機関へチラシを配布した他、全小中高生へ周知用カードを配布した。この周知用チラシとカードには「秘密は守ります」という記載がなかったことから、周知用カードには今年度新たにリニューアル際にその旨を記載し、既に配布済みのチラシには早い時期に差し替えにより対応したい。

個人質問 (2019年7月 二期目初質問)

2019年7月11日に二期目初の個人質問に立ちました(代表質問がある定例会は、一般質問ではなく個人質問と呼びます)。以下、大綱毎に1問ずつ挙げています。こちらもYouTubeで全60分間の質問を見ることができますのでご覧ください。



ソサエティ 5.0 における ICT, AI の推進

荒木: 市が策定したAIビジョンに、函館市を取り巻く状況が三点挙がっている(1人口減少と人手不足の深刻化、2労働生産性の向上の必要性、3市外に転出する若者層への雇用の場の確保)。この三つの課題解決につながる策はどのように考えているか。

荒木の視点⇒一日10人人口が減る函館は市場規模の縮小が進む。天候と税収、消費動向の関係等データの関連性が見出せると先を見通せて予測が可能。未来大高専始め研究環境が整った函館ではAI/ICTの取り組みにもっとスピード感が求められる。

企画部: 本市は、少子高齢化や人口減少の進展により様々な課題が生じている中、AI関連技術の導入により、地場産業では作業の省力化など生産性の向上、人手不足の解消や収益力の強化による所得水準の向上、若者の地元への定着につなげていくとしている他、未来大学などの高等教育機関や試験研究機関が集積している強みを生かしたIT関連企業の誘致により、若者の雇用の場の創出を図る。

西部地区再整備事業

荒木: 再整備事業には、十分に活用されていない土地、空き家・空き地を対象とした「既存ストック活性化プロジェクト」がある。似た事例は他の自治体でもあるが、他は利害調整をNPO等がやっている。函館は、低未利用不動産所有者から直接市又は民間団体が売却などで不動産を取得。ランドバンク本家の米国の仕組みに近いと感じる。これを進める上では、民間との連携が極めて重要と考えるが、市はどのように考えているのか。

荒木の視点⇒本事業は西部地区の定住人口の回復、交流人口(地域に訪れる人)の底上げが目的。上の既存ストック活性化を始め、官民連携の情報共有や町会活性化も事業に含まれる。利害関係者が多いだけに最初の意識合わせが重要に感じる。

都市建設部: 基本方針では、民有の空家・空地、狭小宅地等の他、公有の低未利用地を既存ストックと位置づけ、これらの活用策を検討・実施する既存ストック活性化プロジェクトを行うこととしているが、この事業の実施には、不動産取引やリノベーション等、民間の専門的な知識と経験が必要となる上、不動産の所有や管理・開発事業等といった業務については行政だけでなく民間事業者等と連携して行うことが不可欠と考えており、現在、効果的な民間との連携手法を検討している。

移住者誘致の取り組み

荒木: 昨年実施された転入者のアンケートを見ると、移住者のうち20~30代が約半分を占めている。Uターンも若者の比率が高いが、函館出身ではなくて函館に移住するIターンを見ても若者が多い。このIターンに絞った場合、移住の理由や傾向をどうとらえているのか。

企画部: Iターン者は20~30歳代が約57%と若年層の占める割合が多く、転入前の居住地は札幌市が約78%と多数を占め、次いで首都圏が約11%。20~30歳代Iターン者の本市転入理由は「職場がある」と「希望する仕事があった」を合わせ約67%。Iターン動機では「仕事」に関する要因が大きい。

転入者アンケート(H30年度): 移住者※のうちIターン者は、転入前居住地が東京23区又は政令都市でUターン以外として調査を実施。

※移住者: 転入のきっかけが「転勤・進学」以外の者。

荒木: 西部地区再整備事業のアンケートでは、移住決断の大きな判断材料が「仕事」。就職、起業の他、後継者不在の会社の継承もあり、後継者不足で廃業検討しかし人材があれば事業継承を希望するケースが全国的に増えている。市としてどのように考えているか。

荒木の視点⇒人口減少スピードの鈍化のためにも移住者誘致は重要。政策立案のためにも現状把握・ニーズ把握のための調査は継続的に必要。移住者の声を集める手法を工夫してほしい。

経済部: 企業の後継者不足は本市の経済活力を維持する上で大きな課題。移住者の事業承継は、その解決に向け有効な手段の一つ。事業継承は企業にとってセンシティブな問題であり、多くの課題もあるが、移住者の事業承継も含めさらに調査研究を進め、市内企業の円滑な事業承継に向けて取り組む。

活動のあれこれ - 2019年1月～ 荒木あけみの活動の一コマを写真でご紹介～



保護司会新年会で日舞。
長唄「鶴亀」を披露。
(1/17)



地元の棒二森屋閉店日。
80年超の歴史に幕。
(1/31)



↑YWCA改修お披露目会
学校備品譲渡会の品を活用
頂く。この鏡も中学校で使わ
れていたもの(4/27)



2期目初の個人質問には傍聴43名。
質問後の控室前。(7/11)



2日目の千代台・五稜郭
コースは2周回りました。
港まつり(8/2-3)



お花見に、
グリーンシ
ートの使用
が広がって
きた印象。
五稜郭公園
(GW頃)



街をあげてアニメの聖地
を応援。沼津視察(8/6)



毎年港まつりシーンで仲間と
函館音頭を踊っています。
函館野外劇(7/20)



はこだて夜祭り in グリーンプラザ
(8/12)



滋賀で地方財政の研修
研修所に3日カンヅメ
(8/19-21)



来年の大河ドラマ
「明智光秀」の
ゆかりの地
亀岡市視察
(8/7)



議員辞職勧告決議案に対して、退席した理由

2019年9月議会で、ある議員に対して議員辞職勧告決議案が出され、私は議場を退席(棄権)しました。その退席理由について、facebookに投稿した内容をまとめて以下に挙げます。(議場では退席理由を述べられないためこちらに記します)

結論は、①賛否を明らかにできる程の情報がなかった、②妥当性を確認する調査時間がなかった、③疑問を解消できる場がなかった、そのため致し方なく退席しました。議会運営委員会で行ってきた本件の調査は承知しており、9月12日に委員長報告された調査結果に対して賛成の立場を表明しました。一方、辞職勧告決議案は個人的に聞いた話や新聞報道で知りましたが、その議論の過程は分かりませんでした。いくつか選択肢がある中で辞職勧告とした経緯を知りたくても、A4で1枚半の決議文面で判断したくても疑問を確認する術、そして結論を出す時間はありませんでした。

議会運営委員会以前に本件が挙がっていた各派代表者会議では、無所属は傍聴ができず、スタート時点でどのような議論になっていたのかわかりません。会派に所属する議員は、本人が会議に出ないとしても、会派の中で情報が共有され4月頃からの経緯はご存知と思います。この間、情報が入らないならば会派に入ればよい、とも言われましたが、無所属も選択肢として認められている以上、無所属として是々非々で意見を表明したいと思っています。それでも賛否を表すのが議員とも言われましたが、判断材料が乏しいと感じる中で賛否を示しても後から説明できないと感じ退席を選択しました。

今回のように定期的に挙がるものではない議案に対して、今後無所属としてストレスなく賛否を明らかにするためにはどうしたらよいのか考えていきたいと思っています。お読みいただいた皆様のご意見も伺えたら嬉しいです。

ニュースレターの感想、市政へのご意見などお聞かせください！

郵送の方は → 〒040-0035 函館市松風町 17-10 未来へつなぐ荒木あけみネット

FAXの方は → 0138 (76) 3321 メールの方は → araki.akemi@gmail.com

荒木あけみホームページ : <http://www.arakiakemi.jp/>

未来へつなぐ荒木あけみネット Facebook ページ : <https://www.facebook.com/ARAKIAKEMInet>